

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 29日

事業所名 コロニー 児童デイサービス とみぐすく

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				
	2	職員の配置数は適切である	6			基準以上の人数の職員を配置している。職員の急な休みに対しては活動内容等の工夫をしている。	急な対応や利用状況によっては、曜日によっては豊富な職員体制が必要な事もある。急な対応については、今後も支援方法を検討し、切り替え方法を模索する必要がある。急な対応で他の児童が散漫にならないためにも、職員間の連携は密に行う。個別支援とグループ支援(行動)のバランスを取り、安全に支援できる体制を確保する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			入口車いすでも入れる間口、全面フラットフロア、トイレ入口段差なしスライドドア、トイレ内立位バー転落防止手すり、車いすでも十分入る広さがあります。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			会議を開く時は、ほとんど全員参加した。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			前年度の意見をもとに、改善を行った。(例:夏休み等の長期休暇期間において、食育と自立に向けたサポートを目的に、週1回の昼食作りを行った)	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページでも掲載しているが、今年度は4月の家族会資料配布時に配布した。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			昨年度よりも、多く実施できた。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員会議の際に、活動プログラム内容について話し合いを行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			学校・家庭・デイの様子を記載する連携ノートを活用。始業前に把握と対応について連携を行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	6				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	6				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	6				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	6			看護師がいないので医 療ケアは行えないが、て んかん発作のある児童 については主治医や地 域医療との連携する体 制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	6				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	1		5		今年度は対象児童がいなかったが、対象児童がいる場合に は、情報提供等を行います。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	6				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	5	1		地域のイベント参加や 近隣の公園へ行き、障 がいのない子どもと触 れ合い、交流を実施し ている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	6			連絡会やイベントへ参 加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	6				子どもの状況を日頃から伝えているが、課題については自宅 とデイと違いがあったりして、少しズレがあることもあり、気 になることは、その都度聞き取り、他職員へも連携している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている			6	計画的にプログラムを 組んで行っていないが、 特性に応じた1人1人の 対応の仕方について は、家族へ共有してい る。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	6				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	6				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	6				今年度は1回のみ交流会で、参加できる人出来ない人もい た。交流会の開催の仕方についても検討し、次年度の開催を 増す。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	6				今年度は苦情はなかったが、相談や対応の仕方について要 望があり、対応しています。(例:車の停め方2件、子どもの引 き渡しの仕方、友達との距離感など) その都度、相談して対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	6				
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	6				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている		2	4		近隣の方からの訪問や、イベント参加の案内を受けたりする 事があり、それに参加することはあるが、自事業所で行うこ とはほとんどなく、今後安全面も考えた上で、実施可能な行事 があれば進めていきます。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6				マニュアルについてはそれぞれあり職員は確認しているが、家族へは細かく周知できていないところがある。現行のマニュアルの適正も含めて確認したうえで、周知行います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			年間行事に組み入れ、予定通り実施されている。	今年度はご家族も連絡アプリを介して、避難訓練に参加頂いています。引き続き継続して実施。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				今年度は3回行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1		5		現在はアレルギーのある対象児童はおりませんが、アレルギーのある子が利用する場合には、医師の指示書に基づき、安全に配慮した対応をさせていただきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6				事業所内でのヒヤリハットのみあるが、グループ全体の共有事例もあるので、今後はそれも含めてファイリングし共有する。